

未来を見据え、 新しい住まいのかたちを 考えるための10冊

生活様式や社会的価値観が大きく変化するなか、
これからはどのような住まいが求められていくのでしょうか。
今号で紹介した事例の理解を深める10冊を選びました。



6 『シェアの思想／または愛と制度と空間の関係』

建築分野における「シェア」は、単なる空間の有効利用が目的ではない。背景にある近代社会制度、政治、経済、哲学、家族などの文脈を読み取り、社会的・思想的流れに位置付け直すことで、「シェア」の実像と可能性について考察を重ねる。建築家や哲学者15人の考え方や、実践された作品などにも触れられる貴重な一冊。

門脇耕三=編集協力・著 西沢大良、古澤大輔、
國分功一郎、西田亮介、千葉雅也ほか=著
LIXIL出版/2015年



7 『サブスクリプション ——「顧客の成功」が収益を生む新時代のビジネスモデル』

サブスクリプション型ビジネスモデルについて明かし、全米でベストセラーになった一冊。サブスクとは単なる定額制ではなく、顧客のニーズに合わせて常に改善が求められる「永遠のベータ版」サービスであり、製品中心から顧客中心へと組織の発想が移行することこそが本質であると説く。

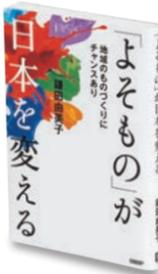
ティエン・ツォ、ゲイブ・ワイザート=著
桑野順一郎=監訳 御立英史=訳
ダイヤモンド社/2018年



8 『「よそもの」が日本を変える』

コロナ禍により、人々の働き方やマインドは激変した。今は、昔ながらのものづくりや文化に恵まれた「地域」にこそ可能性があり、それを自覚めさせるのが「よそもの」存在だという。農業や観光などの地域ビジネスに都心のビジネスパーソンが参入し新たな価値を生んだ事例や、著者自身の経験を紹介しつつ、未来に残るシン・チホウ(新・地方)創出の道筋を考える。

鎌田由美子=著
日経BP/2021年



9 『町の未来をこの手でつくる ——紫波町オガールプロジェクト』

morinekiの入江氏が先導例として目指した岩手県紫波町のオガール。その歩みを関係者への丹念な取材で追う本書は、健全な資金調達と長射程のランドデザイン、ライフスタイルを核にした集客力など、公民連携による真のにぎわい創出への道を具体的に指し示す。高齢化と人口減、財政難に悩む地域の未来を考えるうえで必読の一冊。

猪谷千香=著
幻冬舎/2016年



10 『住み開き 増補版 ——もう一つのコミュニティづくり』

自宅の一部を開放し、博物館や劇場、ギャラリーや子育てサロンなどに活用する「住み開き」の提唱者・アサダワタル氏の単行本(2012年発売)に増補を加えた文庫版。紹介されている40事例のなかには、若者だけでなくシニア層による取り組みも見られ、当時の空気感や実践者たちのフィロソフィーを感じ取ることができる。

アサダワタル=著
ちくま文庫/2020年



1 『和室学 ——世界で日本にしかない空間』

寸法の規格化と自由度の高い建具で間取りを変えやすく、素材の特性と建具の工夫で温度や通風の調節に長け、木材を中心に伝統技術の応用もきく。和室は社会的・文化的・環境的持続可能性の面で近年再評価される。和室の定義や歴史、文化的影響、生活との関係まで、多様に論じた本書は懐古趣味とは無縁の知的興奮に満ちている。

松村秀一・服部岑生=編
平凡社/2020年



2 『民間主導・行政支援の 公民連携の教科書』

行政主導による第三セクター方式のまちづくりが挫折するなか、近年注目を集めているのがアメリカ生まれの先進的な公民連携プロジェクト。紫波町オガールをはじめ、多くの成功例を支えた“仕掛け人”清水義次氏が、公民連携の3つのモデルを紹介する本書は、基本の論文や事例研究も充実し、実践への貴重なヒントに満ちている。

清水義次・岡崎正信・泉英明・馬場正尊=著
日経BP社/2019年



3 『これからのIoTビジネス』

技術的シーズは完成しつつも、一般レベルへの浸透は道半ばの感もあるIoT。特に住宅関連での統合メリットが大きいとされるこの分野に関し、本書の内容は原理と応用、実際の展開まで、図解を多用して明快にまとめる。IoTによるつながりが、産業や生活に何をもちたらし、社会をどう変えていくかが一望できる、充実の入門書だ。

IoT産業技術研究会=著
デリバリーコンサルティング=監修
エムディエヌコーポレーション/2018年



4 『建築の多様性と対立性』

今号で岸氏が取り上げた『建築の複合と対立』の改訂版。著者のヴェンチャーリはアメリカの建築家で、形態の単純性や幾何学的な純粋性を表現することを重視した近代建築に、いち早く異を唱えた人物。中世西欧の歴史的な建築に見られる多様さと、建築や都市デザインに内在する対立性には有用性を見出した。二者択一ではなく両者共存という考え方は、現代の住まいにも参考になる。

R・ヴェンチャーリ=著 伊藤公文=訳
鹿島出版会/1982年



5 『シェアライフ ——新しい社会の新しい生き方』

内閣官房シェアリングエコノミー伝道師の肩書きをもつ著者が、「シェア」=分かち合うことという思想的本質を見出し、将来に向けた新しい生き方や社会のあり方を提案していく。資本主義社会がもたらしたこれまでの経済的価値基準とは異なる「つながり資産」という考え方と、自らも実践するシェアライフの事例類には学ぶ部分も多い。

石山アンジュ=著
クロスメディア・パブリッシング/2019年

